

看護師によるエコー下穿刺の取り組み ～臨床工学技士の立場から～

双樹クリニック

○松山大輝 曾我嘉博 廣瀬陽子 三浦紫乃 渡辺弘子
池本由紀子 中村智恵美 田原尚恵 永井巧雄 永井賢一

はじめに

- 当院では超音波診断装置（以下エコー）を用いて臨床工学技士がVA管理を行っている
- そのため、穿刺困難患者のエコー下穿刺は臨床工学技士が行っていた
- 今回、看護師がエコー下穿刺に取り組んだので報告する

施設紹介



- スタッフ：看護師：12名
臨床工学技士：14名
計26名他
- ベッド：1階透析室：44床
2階透析室：36床
計80床

使用装置



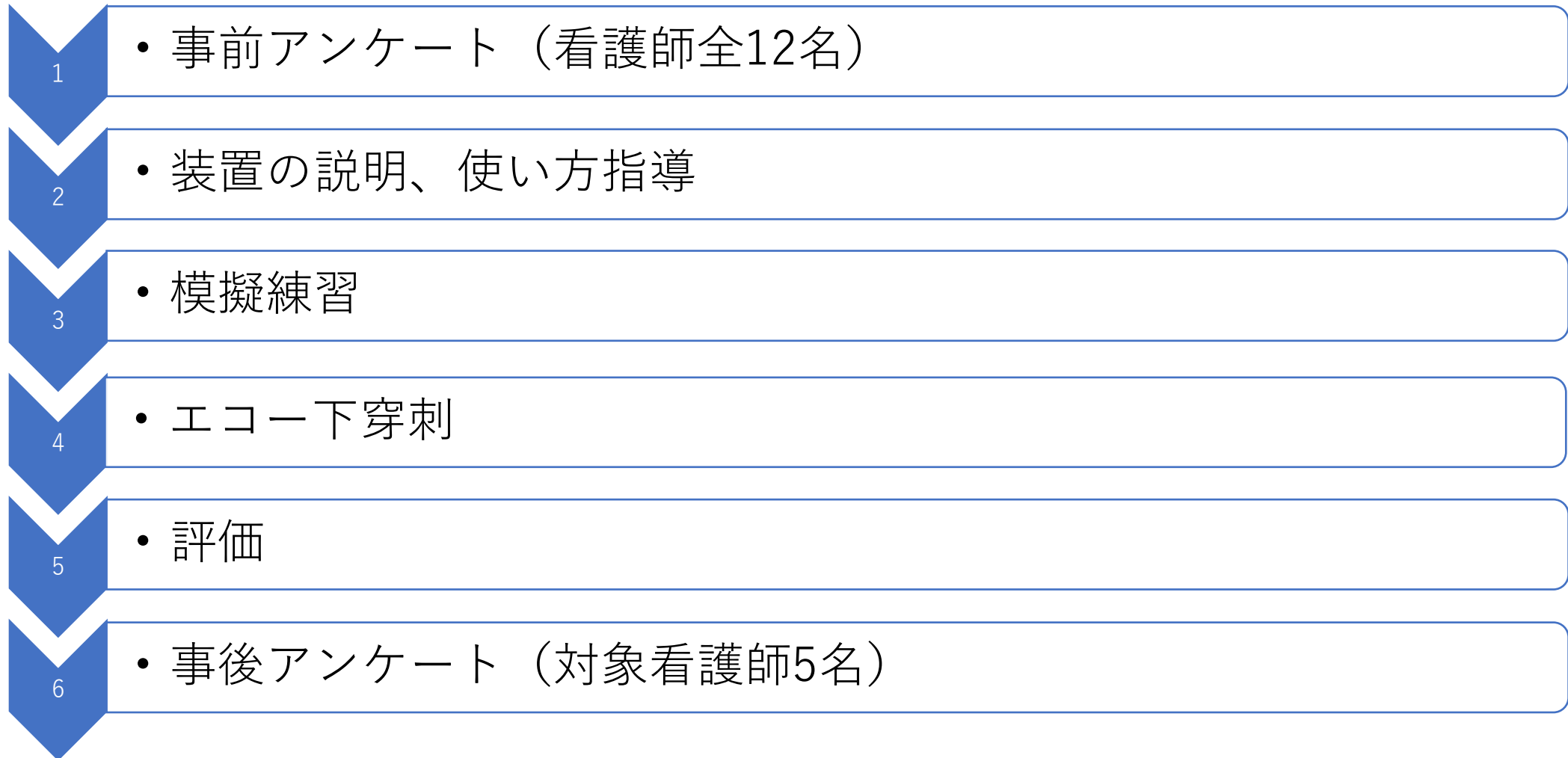
GEヘルスケア・ジャパン社製
LOGIQ eV2

- プローブ：6.0～13.0MHz
- 画面：15インチ

対象スタッフ

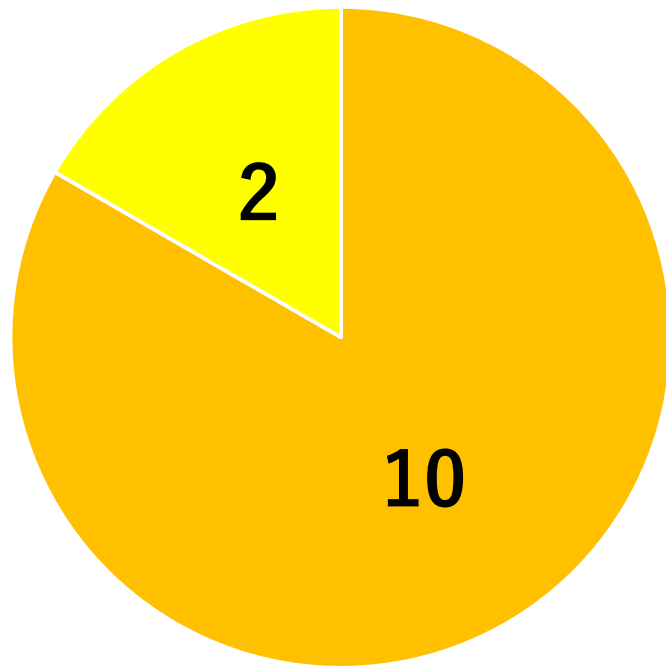
	経験年数（年）	穿刺歴（年）
A	20	20
B	16	16
C	17	17
D	6	6
E	2	2
平均	± 12.2	± 12.2

取組みの流れ（期間：今年2月～4月）



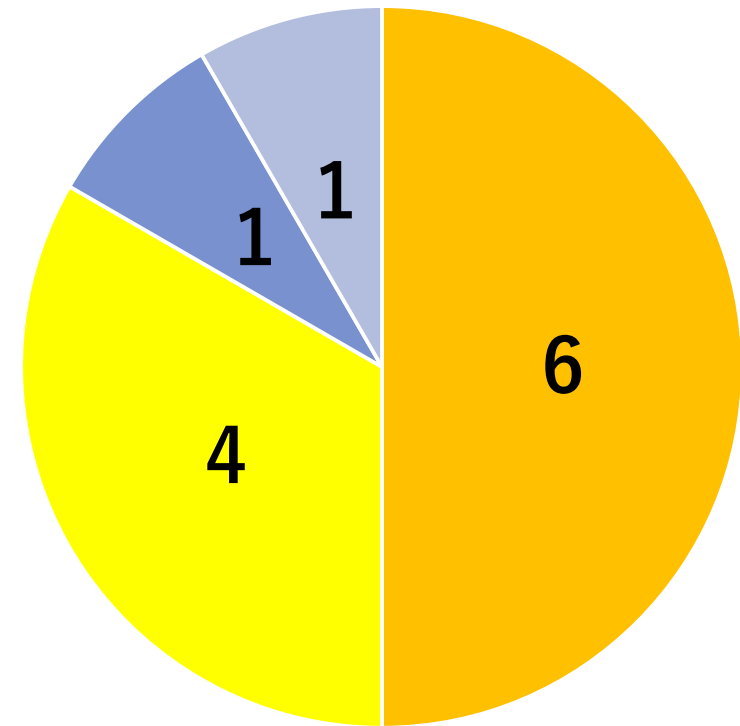
事前アンケート結果

エコー下穿刺ができるようになりたいと思いますか？



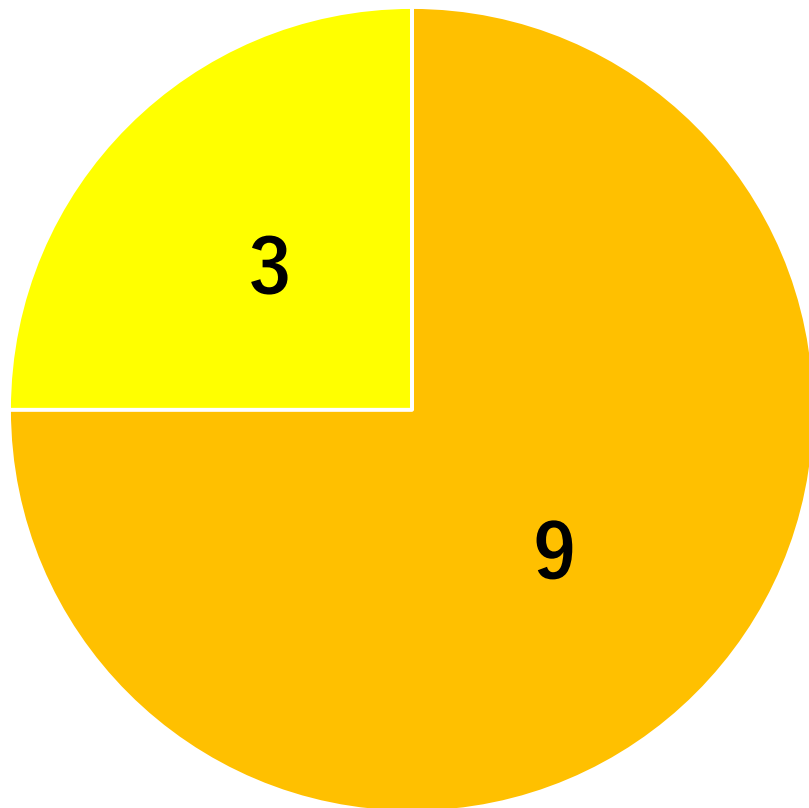
■ 思う ■ 少し思う ■ あまり思わない ■ 思わない

エコーの使用に苦手意識はありますか？



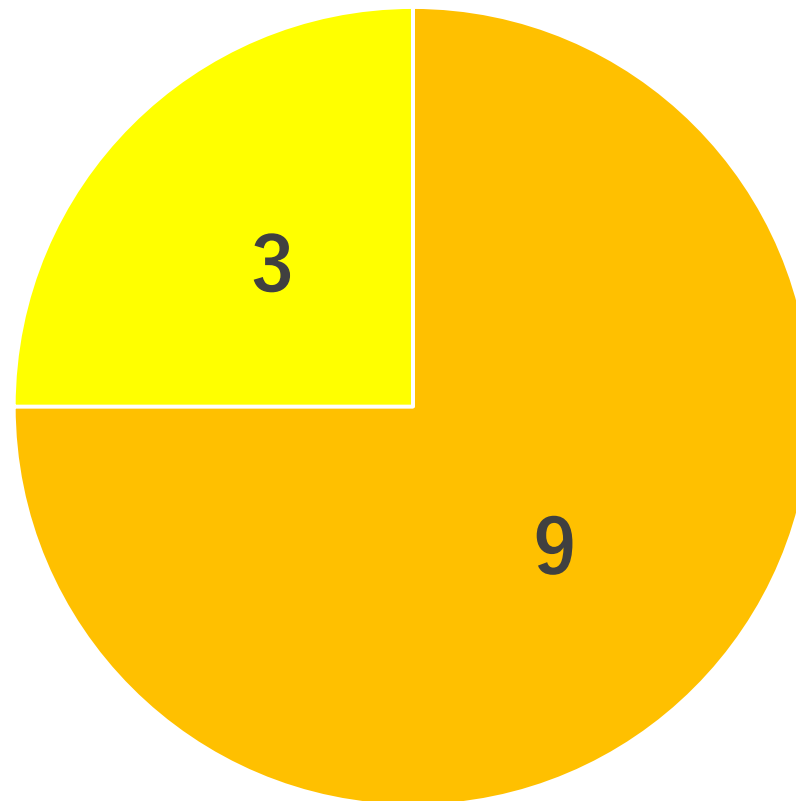
■ ある ■ 少しある ■ 特にない ■ わからない

エコー下穿刺の必要性は感じますか？



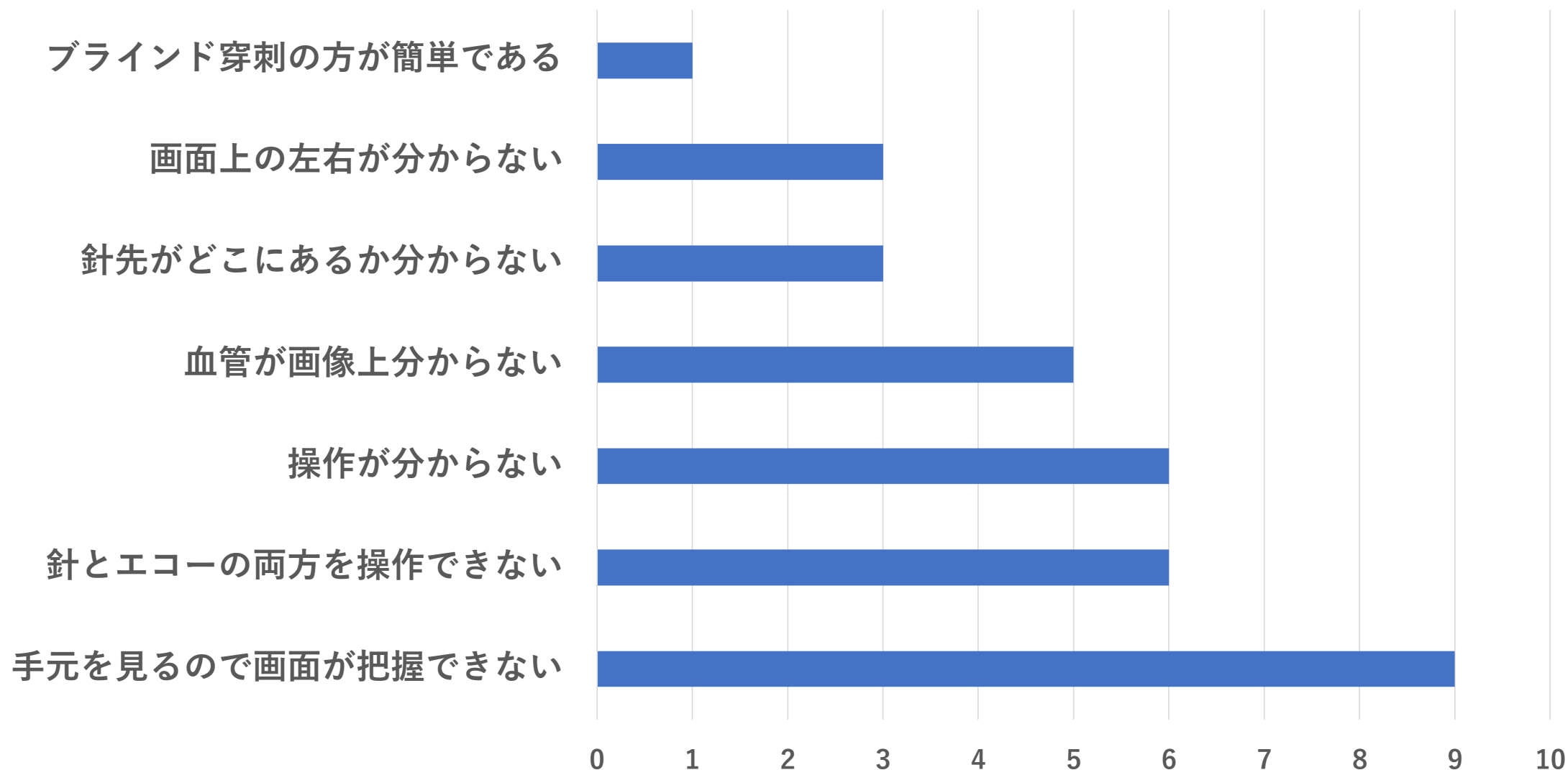
■ 感じる ■ 少し感じる ■ あまり感じない ■ 感じない ■ 分からない

エコー下穿刺は難しいと思いますか？

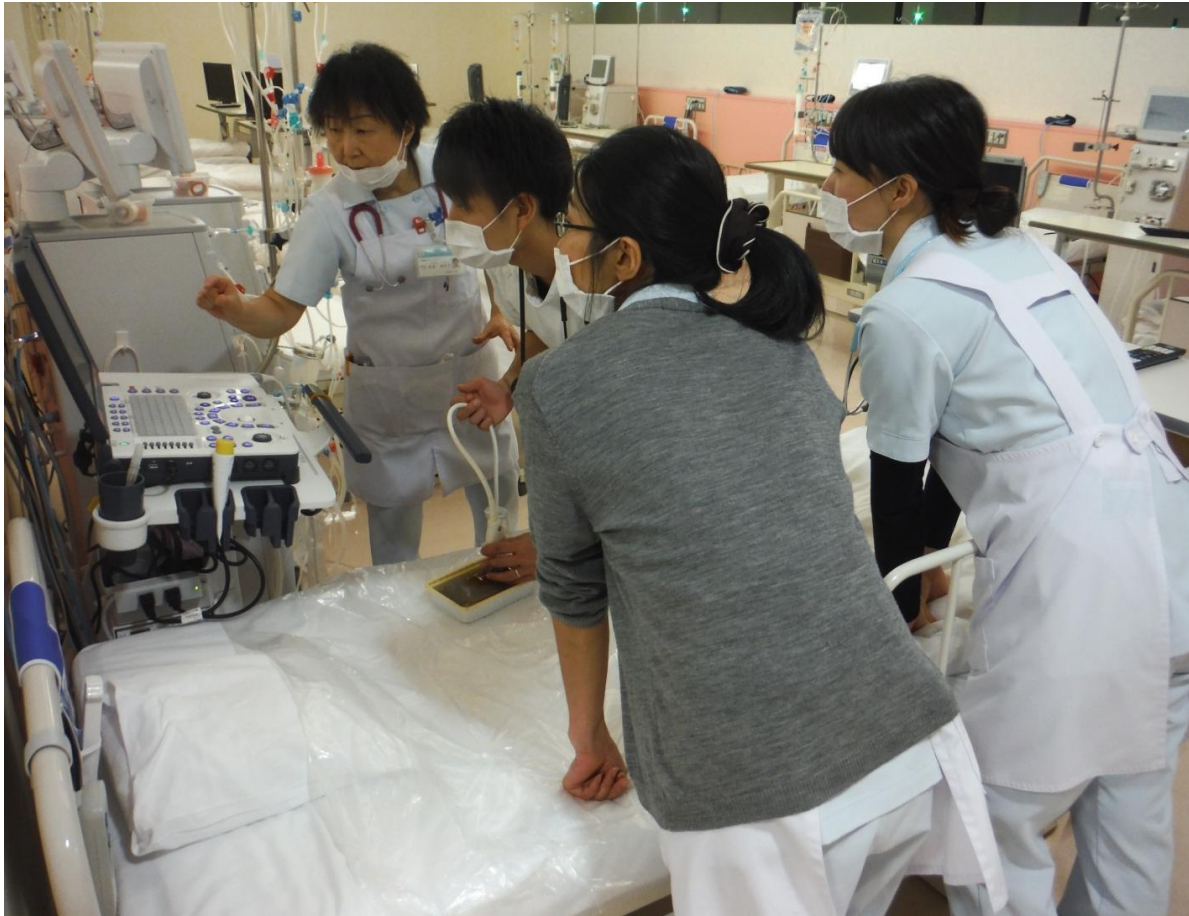


■ 思う ■ 少し思う ■ あまり思わない ■ 思わない

難しいと思う理由は？（複数回答可）



装置説明

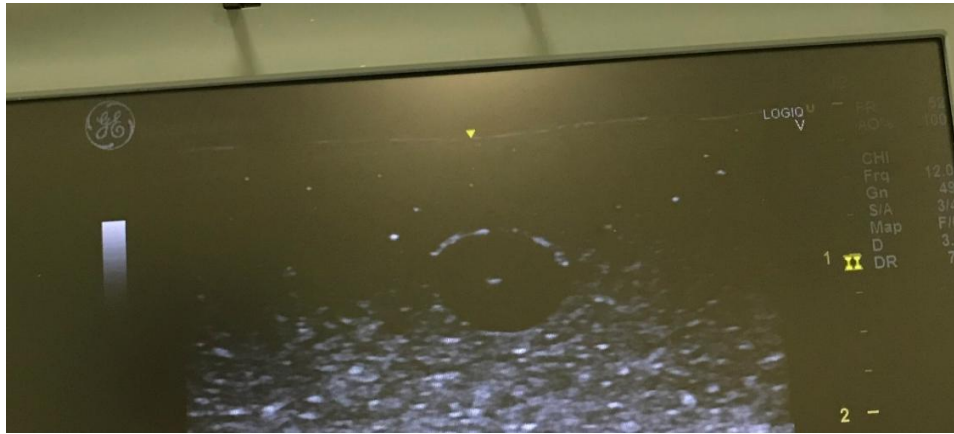


説明内容

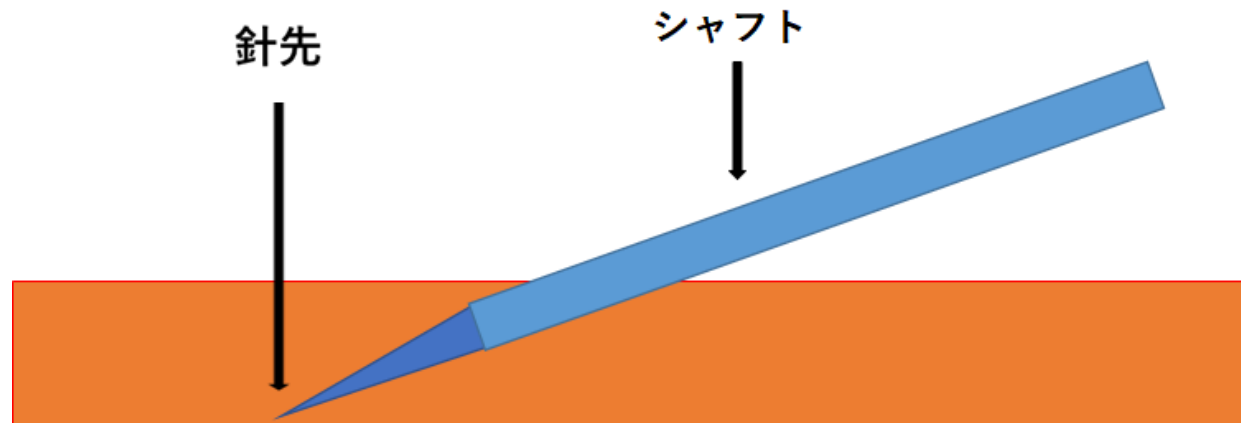
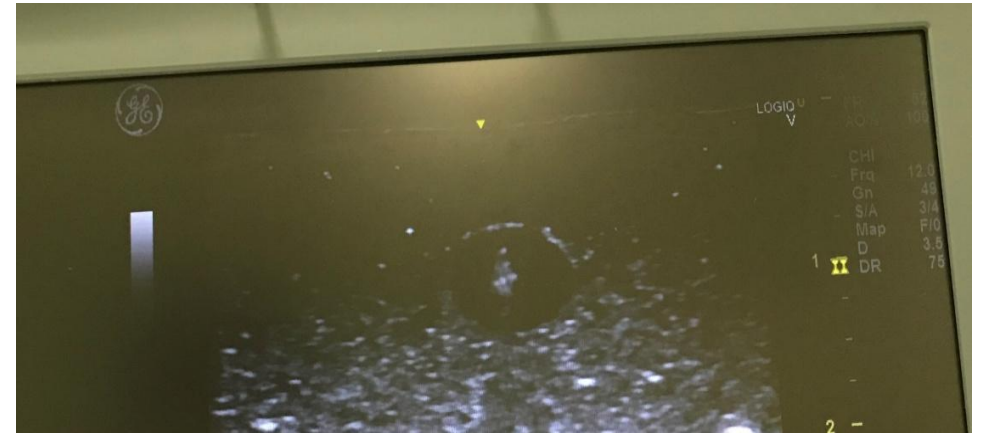
- 装置の立ち上げ方
- 画面の見方
- プローブの向き・持ち方
- ゼリーの付け方・種類

画面説明

針先



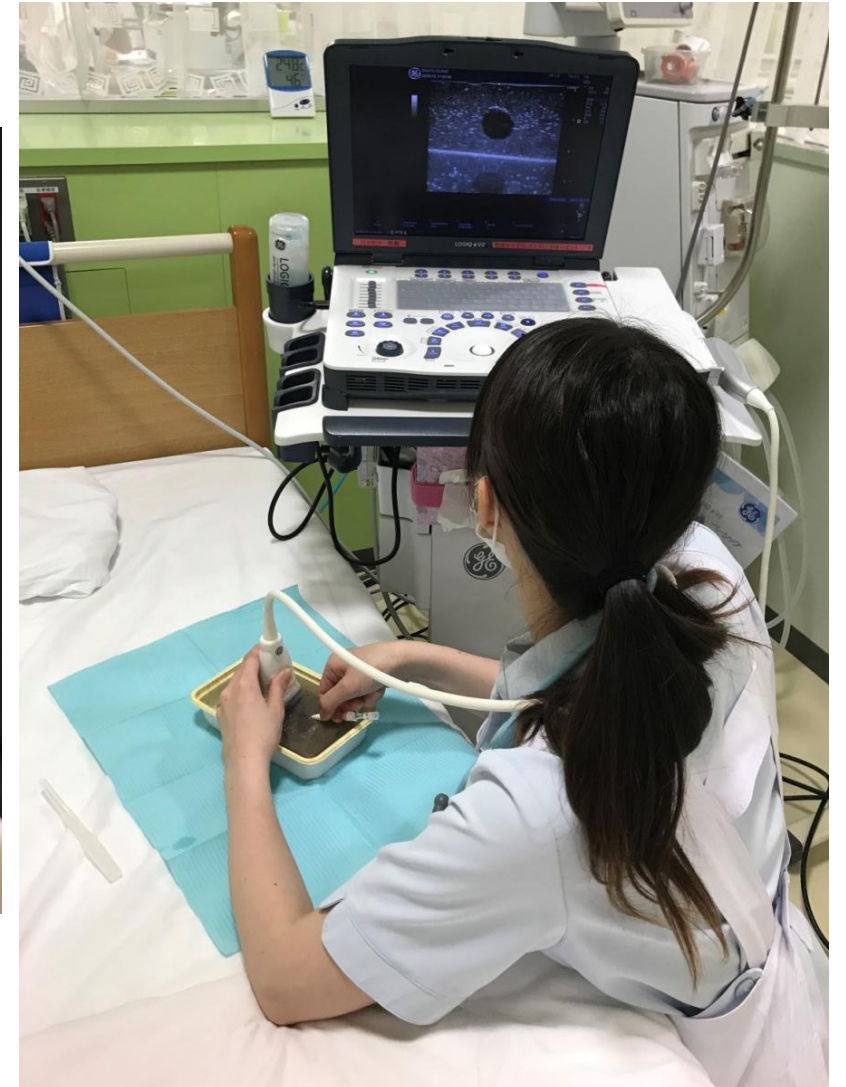
シャフト



穿刺練習

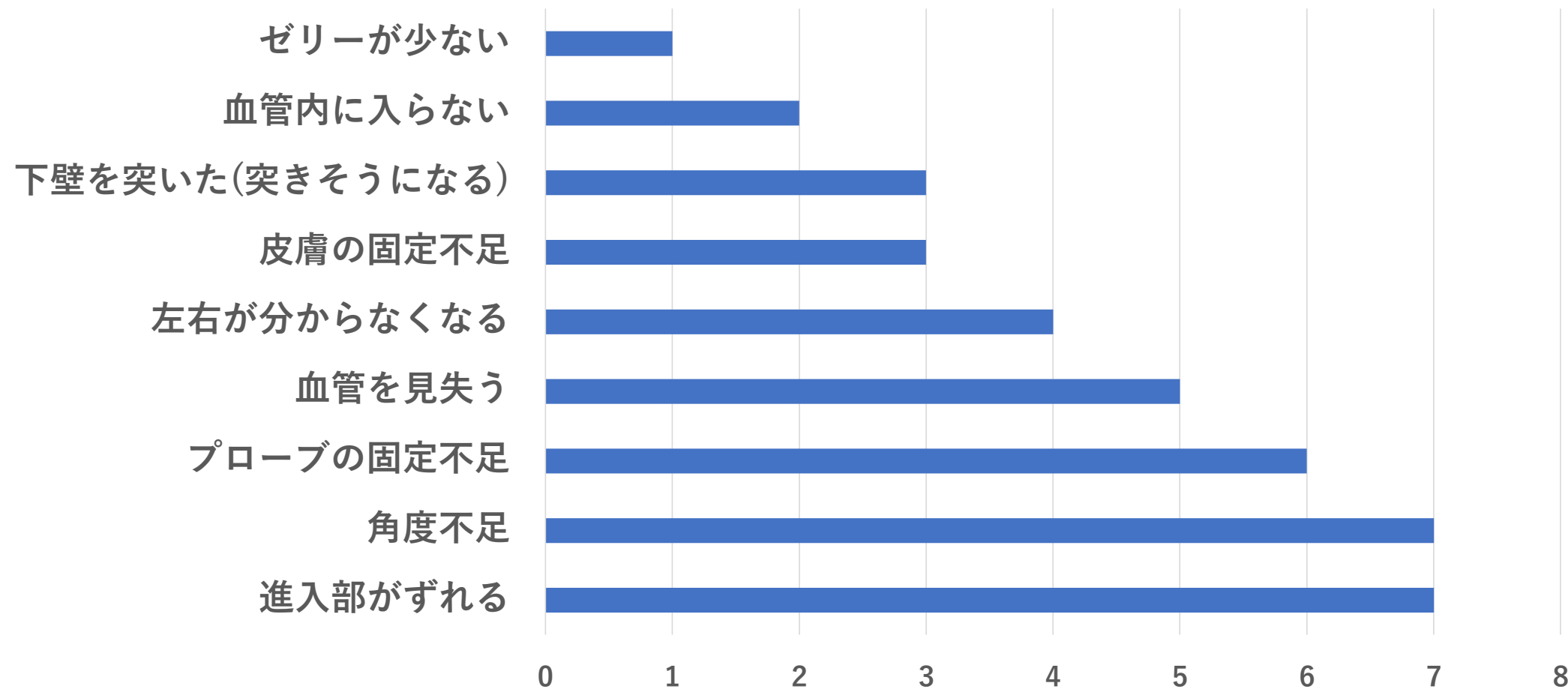
指導内容

- エコーの位置
- プローブの持ち方
- 画面の左右の認識
- 血管走行の確認
- 針の角度調節





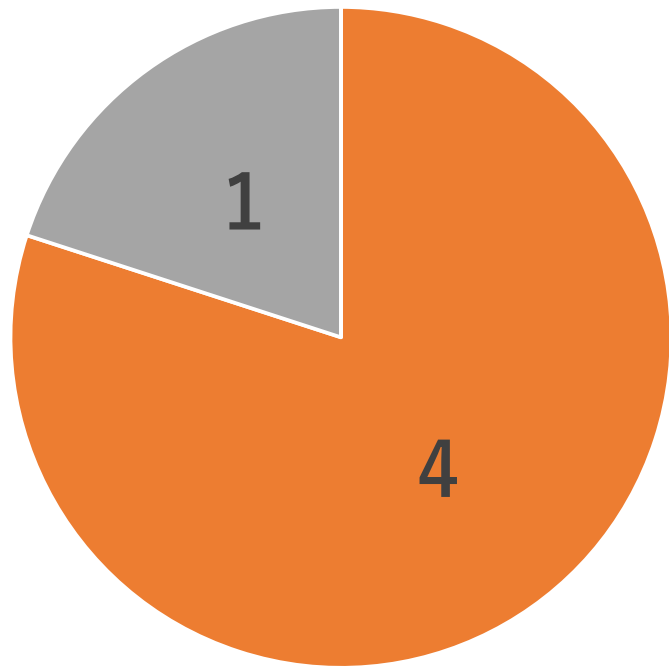
穿刺後の指導内容





事後アンケート結果

エコー下穿刺ができるようになったと思いますか？



■ 思う ■ 少し思う ■ あまり思わない ■ 思わない

理由

- まだサポートをしてもらっているから
- ひとりではまだ不安
- 時間が掛かる
- 慣れていない
- もっと出来るようになりたい

エコーの使用に対する苦手意識は改善 できましたか？



■ できた ■ 少しできた ■ あまりできなかった ■ できなかった

理由

- 画面の見方がわかるようになった
- 操作方法がわかるようになった
- 確実に血管に入れられることが理解できた
- あるだけで穿刺の不安が軽減される
- ひとりで修正を行うことができ自信になった

考察

- 事前アンケート調査ではエコー使用に対する苦手意識があった
- 事前の意識調査で課題が明確化、重点を置き指導することができた
- エコー下穿刺を行ったことで普段の穿刺も見直すことができ、血管のイメージがしやすくなった
- エコー画像をきれいに出す、保持するにはさらに練習が必要

結論

- 看護師もエコーの使用ができるようになった
- エコー下穿刺が行えるスタッフが増えた
- 全員が満足いくまでの習得はできなかった